

平成 30 年度 再評価点検表（内部評価）

1 事業概要

事業名	いきいき水路モデル事業（玉串川地区）						
担当部署	環境農林水産部 中部農と緑の総合事務所 耕地課（連絡先 072-994-1515 内線 362）						
事業箇所	八尾市二俣～山本町南						
再評価理由	事業採択後 10 年間を経過した時点で継続中						
事業目的	八尾市域を南北に流れる玉串川は、地域の農地 85ha を灌漑する重要な農業用水路である。しかしながら、近年、護岸の老朽化が著しく、いたる所で護岸ブロックや石積が崩壊し危険な状況となっている。 このようなことから、護岸の整備を行うことで、崩落や溢水被害を未然に防止し、農業用水路の機能の確保及び農業経営の安定を図るとともに、さらなる地域の良好な景観の確保等を図り、地域住民に快適で安全・安心な暮らしを提供するものである。						
事業内容	水路工 L=3,231m (3,498m) 防護柵設置工 L=1,813m (4,273m) ( ) 内の数値は事前評価時点のもの						
事業費 ( ) 内の数値は事前評価時点のもの	<table border="1"> <tr> <td>全体事業費：約 10.3 億円（約 9.9 億円）〔国：5.1 億円、府：2.6 億円、市：2.6 億円〕</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(内訳) 調査費等 約 0.3 億円（約 0.4 億円） 補償費 約 0.3 億円（約 一億円） 工事費 約 9.7 億円（約 9.5 億円）</td> <td>【工事費の内訳】 水路工等 約 9.3 億円（約 8.2 億円） 防護柵工 約 0.4 億円（約 1.3 億円）</td> </tr> </table>			全体事業費：約 10.3 億円（約 9.9 億円）〔国：5.1 億円、府：2.6 億円、市：2.6 億円〕		(内訳) 調査費等 約 0.3 億円（約 0.4 億円） 補償費 約 0.3 億円（約 一億円） 工事費 約 9.7 億円（約 9.5 億円）	【工事費の内訳】 水路工等 約 9.3 億円（約 8.2 億円） 防護柵工 約 0.4 億円（約 1.3 億円）
全体事業費：約 10.3 億円（約 9.9 億円）〔国：5.1 億円、府：2.6 億円、市：2.6 億円〕							
(内訳) 調査費等 約 0.3 億円（約 0.4 億円） 補償費 約 0.3 億円（約 一億円） 工事費 約 9.7 億円（約 9.5 億円）	【工事費の内訳】 水路工等 約 9.3 億円（約 8.2 億円） 防護柵工 約 0.4 億円（約 1.3 億円）						
事業費の変更理由	<p>(減額の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・別途事業での対応による水路延長 (L=267m) の減</li> <li>・現場精査による防護柵延長 (L=2,460m) の減</li> <li>・事業量減等に伴う調査費の減</li> </ul> <p>(増額の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電柱の移設等による補償費の増</li> <li>・物価変動等（労務資材費、消費税）による自然増</li> <li>・工事期間中の農業用水の確保に伴う仮設費の増</li> </ul>						
維持管理費	大阪府、八尾市及び築留土地改良区で締結している覚書に基づき、大阪府が整備した施設のうち、水路については築留土地改良区に、防護柵等については八尾市に、それぞれ引き渡すこととしており、大阪府の維持管理費用は発生しない。						

2 事業の必要性等に関する視点

	事前評価時点 H20	再評価時点 H30	変動要因の分析
事業を巡る社会経済情勢等の変化	<p>【地域及び水路の現況】</p> <p>○概況 八尾市域を南北に流れる玉串川は、大和川付け替え以前の旧大和川本流の一つで歴史ある水路であり、地域の特産である枝豆や若ごぼうなどの用水源であるとともに、水路沿いには桜並木や石積護岸など地域の良好な景観を形成している。しかし、近年、護岸の老朽化が著しく、いたる所で護岸ブロックや石積が崩落し危険な状況となっている。</p> <p>○諸元 石積及びブロック積護岸水路 延長 L=3,498m 水路底幅 約 2.3m～3.8m</p>	変更なし。	他事業での対応による延長の減
	<p>【受益】</p> <p>103.1 h a</p>	84.6 h a	農地転用による受益農地の減
	<p>【護岸崩落に伴う溢水被害の影響】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・被害想定区域 44.5ha</li> <li>・浸水想定戸数 2,239 戸</li> <li>・想定農地被害面積 4.5ha</li> <li>・想定被害額 2,263,121 千円</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被害想定区域 44.5ha</li> <li>・浸水想定戸数 2,275 戸</li> <li>・想定農地被害面積 3.3ha</li> <li>・想定被害額 2,393,478 千円</li> </ul>	土地利用の変化による被害戸数の増、農地面積の減、被害額の増
	<p>【生息する生き物】</p> <p>玉串川では、コイが多く見受けられる他、フナ、メダカ、オイカワ、カメ、ザリガニなどの生き物が生息している。</p>	変更なし。	

地元の協力体制等	<p>事業実施にあたっては、水路管理者である八尾市及び築留土地改良区からの要望をはじめ、地元からも遊歩道の整備等の要望がある。このようなことから、地元の自治振興会（沿川の 3 委員会）委員長を通じ、沿線住民へ整備イメージ図を示すとともに玉串川に関するアンケート調査を行い、事業推進を図ったところである。</p> <p>今後は、八尾市、築留土地改良区、地域住民との協議の場を通じ、整備内容について、景観の向上並びに地域住民へのよりよい環境の提供など、細部検討を行い、地域に愛される玉串川の整備を進めていく。</p>	<p>二俣分水から外環状線までの上流区間（約 1.6km）の事業実施にあたっては、八尾市及び築留土地改良区に加え、平成 22 年度に沿川住民で設立された組織「玉串川整備曙川東地区推進協議会」と協議、調整を図りながら進めたところである。</p> <p>また、平成 28 年度から下流区間の事業実施にあたっては、既存の住民組織である 2 地区（刑部、山本南）のまちづくり協議会等の場で整備内容について協議、調整し、地域に愛される玉串川の整備を進めているところである。</p>	
	事前評価時点 H20	再評価時点 H30	変動要因の分析
事業の投資効果 <費用便益分析> または <代替指標>	<p>【効果項目】</p> <p>災害防止効果 132,280 千円 維持管理費節減効果 -1,295 千円</p> <p>【分析結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総費用総便益費 = 2.83</li> <li>総便益 = 22.39 億円</li> <li>総費用 = 7.89 億円</li> </ul> <p>【算出方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな土地改良の効果算定マニュアルにより算出</li> <li>・総便益 災害防止効果や維持管理費節減効果など、評価期間における効果額を現在価値化し算出</li> <li>・総費用 当該事業による費用に資産価額及び評価期間（当該事業の工事期間+40 年）における再整備を加え、評価期間終了時点の資産価額を減じた事業費を現在価値化し算出</li> </ul> <p>【受益者】 受益農家、地域住民</p>	<p>災害防止効果 138,343 千円 維持管理費節減効果 -1,338 千円</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総費用総便益費 = 2.29</li> <li>総便益 = 18.50 億円</li> <li>総費用 = 8.06 億円</li> </ul> <p>変更なし。</p>	<p>周辺の土地利用の変化や事業費の増加などによる変動</p>

事業効果の定性的分析 (安心・安全、活力、快適性等の有効性)	<p>【効果項目】</p> <p>&lt;安全・安心&gt; 水路の安全性が向上し、護岸崩落などによる溢水等の被害を未然に防止することができ、安全な生活環境が形成される。</p> <p>&lt;活力&gt; 農業用水路の機能が確保され、農業経営の安定を図るとともに、地域農業の振興に寄与する。</p> <p>&lt;快適性&gt; 身近で快適な水辺環境が創出され、人々にやすらぎとうるおいを与える。</p> <p>&lt;その他&gt; 国際かんがい排水委員会において「世界かんがい施設遺産」として平成 30 年 8 月 13 日に登録された歴史的に由緒ある玉串川を保全することができる。</p> <p>【受益者】 受益農家、地域住民、府民</p>
-----------------------------------	--

	事前評価時点 H20	再評価時点 H30	変動要因の分析
事業の進捗状況 <経過> ①事業採択年度 ②事業着工年度 ③完成予定年度	①平成 21 年度 ②平成 21 年度 ③平成 25 年度	①平成 21 年度 ②平成 21 年度 ③平成 31 年度	施工ヤードの確保や地元調整に時間を要し、当初計画どおりの進捗を図ることができなかったため。
<進捗状況>	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体 83% (8.6 億円/10.3 億円)</li> <li>・調査等 100% (0.6 億円/0.6 億円)</li> <li>・工事 82% (8.0 億円/9.7 億円)</li> </ul>	
事業の必要性等に関する視点	近年の集中豪雨等により護岸の老朽化が一層進んでおり、安全な街づくりを目的とする防災上の必要性に変化はない。		

3 事業の進捗の見込みの視点

事業の進捗の見込みの視点	現時点で、現場における事業推進上の大きな課題はない。 来年度（最終年度）に必要な予算を確保できれば、事業が完了できる見込みである。
--------------	--

#### 4 コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点	これまで様々な関係機関と協議、調整を図りながら事業を進めてきたところであり、来年度完了を迎える現時点においてコスト縮減や代替案立案の余地はない。
---------------------	--

#### 5 特記事項

自然環境等への影響とその対策	<ul style="list-style-type: none"><li>・工事施行にあたっては、低排出ガス機械を使用するなど、環境に配慮した施工に努める。</li><li>・護岸の整備にあたっては、現景観が失われないよう、石積の再利用や景観に配慮した素材を用いるなど、景観の確保に十分配慮する。</li><li>・玉串川には希少種は確認できないものの、多種多様な生き物が生育していることから、工事施工にあたっては、生き物に十分に配慮し施工する。</li></ul>
事前評価時の意見具申（付帯意見）と府の対応	なし。
上位計画等	大阪府新農林水産業振興ビジョン（H24.3） 新たなおおさか農政アクションプラン（H29.11）
その他特記事項	

#### 6 評価結果

評価結果	○継続 <判断の理由> 事業の必要性については変化がなく、進捗も図られていることから早期完了をめざし継続する。
------	---